

### 第3回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会 議事録(案)

1. 日時:平成23年11月16日(水) 15:00~17:00

2. 場所:一般社団法人 日本自動認識システム協会 A会議室

3. 次第:

- |                 |       |              |
|-----------------|-------|--------------|
| 1. 開会の挨拶        | 事務局   | 15:00 ~      |
| 2. 配布資料の確認      | 事務局   | 15:01 ~      |
| 3. 委員会(議事)      | 半谷委員長 | 15:05 ~16:20 |
| 1) 前回議事録確認      | 事務局   | 15:05 ~15:15 |
| 2) 調査報告(代読)     | 事務局   | 15:15 ~15:30 |
| 3) アーキテクチャ案について | 中村委員  | 15:30 ~16:30 |
| 4) まとめ          | 半谷委員長 | 16:30 ~16:40 |
| 4. 事務連絡         | 事務局   | 16:40 ~17:00 |
| 1) 今後の日程        |       |              |
| 2) 写真撮影など       |       |              |

4. 出席者:(敬称略)

- |        |       |                              |
|--------|-------|------------------------------|
| ・委員長   | 半谷精一郎 | 東京理科大 工学部電気工学科               |
| ・委員    | 中村 敏男 | (株)OKI ソフトウェア 企画室            |
| ・委員    | 寶木 和夫 | (株)日立製作所 横浜研究所               |
| ・委員    | 菊地 健史 | (株)日立ソリューションズ プラットフォーム 顧客外本部 |
| ・委員    | 福田 充昭 | (株)富士通研究所 ソフトウェアシステム研究所      |
| ・委員    | 吉福 貴史 | 日立オムロンターミナルソリューションズ(株)       |
| ・委員    | 平野 誠治 | 凸版印刷(株) 事業開発・研究本部            |
| ・委員    | 山田 朝彦 | 東芝ソリューション(株) IT技術研究所         |
| ・オブザーバ | 鎌倉 健  | (株)富士通研究所 ソフトウェアシステム研究所      |
| ・オブザーバ | 諫田 尚哉 | (株)日立製作所 セキュリティ・トレーサビリティ事業部  |
| ・オブザーバ | 山中 豊  | 経済産業省 産業技術環境局 情報電子標準化推進室     |
| ・事務局   | 酒井 康夫 | (一社)日本自動認識システム協会             |
| ・事務局   | 森本恭弘  | (一社)日本自動認識システム協会             |

5. 配布資料

- |      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 資料1: | 第3回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会アジェンダ  |
| 資料2: | 第2回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会議事録(案) |
| 資料3: | Biometrics2011 出張報告               |
| 資料4: | JKA_IdM_2011.11                   |
| 資料5: | ARES2011_出張報告                     |
| 資料6: | BioIDM アーキテクチャの詳細について             |
| 資料7: | インタフェース仕様書(BioIDM Transaction)    |

## 6. 議事内容

### 1) 前回議事録確認

資料2を用いて、第2回IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会の議事録を確認した。一部タイポを修正し承認された。

### 2) 調査報告

資料3から資料5を事務局で代読し、瀬戸委員の調査報告を行った。

10月18-20日 英国ロンドンで開催のBiometrics2011へ出張、調査してきた。Biometrics2011では、IdMに関しては、インドの社会IDに関する発表があった。これはアイデンティティエコシステムとして開発しているようであるが、技術的な情報についての発表はなかった。詳細プレゼンテーション資料が出てから詳細分析を行う予定でいる旨が報告された。

また、参考情報として、8月22日-26日 ARES2011 (ウイーン) で1件バイオメトリクス+OpenIDの発表があったこと、またバイオメトリクス関係の標準化の中で「Use of Mobile Biometrics for Personalization and Authentication (個人環境設定と認証のためのモバイル端末でのバイオメトリクスの利用)」とのタイトルで新規標準化提案がされていることについても言及された。

委員より質問がある場合は、事務局にメールをいただき瀬戸委員に送付することとした。また、回答を事務局に委員に展開し、共有することも確認された。

### 3) BioIDM アーキテクチャ案の提案と討議

中村委員より、資料6を用いて、「BioIDM アーキテクチャの詳細」案について提案があり、検討した。

今回はインターフェイスの詳細についてなので、概要の説明を行い、詳細については配布資料をもとに各委員に検討いただき、質疑をメールにて行うこととした。

説明の概要は下記。

#### ①前回説明の復習としてBioIDMの考え方を説明した。

BioIDMは以下の2つのコンポーネントに分離する。

-BioIDM Connection: ID Provider インターフェイスおよびマンマシンインタフェースを実現  
OpenID や SAML とのインターフェイス部分を担当するとともに、バイオメトリクスのユーザインタフェース (Biometric GUI) を実現する。  
HTML や JavaScript など記述。

-BioIDM Transaction: バイオメトリック登録や照合のためのトランザクション処理を実現する。  
内部には Biometric Transaction および下位処理である Biometric Attempt がある。Biometric Attempt は、マルチ制御のための Capture Thread と Matching Thread を呼び出す。C++で記述。

#### ②今回は、アテンプト・トランザクション処理について、BioIDM Connection と BioIDM Transaction 間インターフェイスについて説明する。

#### ③BioIDM Connection と BioIDM Transaction 間インターフェイスは WebSocket で実現する。

6種類のメッセージで実現できると考えている。

このうちイベント通知は各種イベント (SELECT、STATE、PROGRESS) を通知するものだが、このイベントはBioAPIのAMD1で規定されており、アプリケーションが画面をコントロールする際にBSPがアプリケーションに通知するものである。

このようにこのインターフェイスはBioGUIベースで実現できると考えている。

また割り込み通知もマッチング処理時のキャプチャやマッチの並列処理を考えると重要なものであると考えている。

#### ④BSPがサポートすべき機能を「4. アテンプト処理概要」の(2)にまとめている。

#### ⑤詳細は資料7に記載している。

#### ⑥来年度以降の実証実験の実施に必要なと考えられる条件を「5. 来年度以降の進め方について」にまとめた。実証実験には各委員のベンダの方々の参加が必要であるが、実証実験が行われるまでに対応しておく必要がある条件を「実証実験の進め方」にまとめた。

是非とも実証実験への参加を前向きにご検討いただき、ご対応のための準備をいただきたいとの要請があった。

提案結果を受け、詳細については配布資料をもとに各委員に検討いただき、疑問がある場合は質疑をメールにて行うこととした。

主な質疑およびコメントは下記の内容。(Q:質問、A:応答、C:コメント)

- ① A: 実証実験に用いるBioAPIは3.0ドラフトベースとなっているが、BSPとして用意のしやすさを踏まえて2.0も対応できるように考えたほうがよい。  
A: ご意見を踏まえて後方互換性を踏まえて実験の中身等を検討してゆく。
- ② Q: Webブラウザのローカルアクセスの制限は、Websocketを使うことで制限なく使えるようになるのか。  
A: そう考えている。
- ③ Q: このコンセプトによるとGUIは製品に依存しなくなるのか。  
A: そう考えている。  
C: ベンダが作りたいたいと考えることもあると思う。  
A: オプションとしてそのような選択肢も取れるように考えたい。
- ④ Q: 今回の仕掛けはいろいろなサイトにSSOで入るための入口に生体認証を使うというものが、生体認証そのものの安全性(信頼性)、つまりBSPの信頼性をどのように考えればよいのか。  
A: 前回の委員会で話したACBioのインプリメントと適用で可能になると考える。  
C: 利便性と信頼性の両方の目的でそれぞれの使用があると考えるので、その両者を考えながら検討を進めてもらいたい。

#### 4) まとめ

半谷委員長より、実施実証実験への参加について、前向きにご検討いただき、ご対応いただきたいと改めて要請をいただき、また種々のご意見は事務局までいただきたくことお願いしてまとめとした。

また、JAISAより、将来のプロジェクトの取り組みのなかでACBioも取り込んでゆくことを考えて行ければよいと考えている旨をお話しし、今後の協力をお願いした。

## 7. 事務連絡

### 1) 次回予定等

- ①場所： 一般社団法人 日本自動認識システム協会にて
- ②日程： 第4回 2012年1月27日(金) 15時から  
第5回 2月22日(水) 15時から

以上